

第58号(2024-1) 2024年10月1日

大学評価学会通信

目次

◆ [報告] 第21回全国大会	1
◆ [報告] 第21回年次総会	2
別紙1 第9期体制について	4
別紙2 2023年度決算案	5
別紙3 2024会計年度活動方針案	7
別紙4 2024年度予算案	9
◆ 共同代表あいさつ	11
◆ [報告] 理事会報告	12
◆ [受賞・表彰] 田中昌人記念学会賞受賞者のことば	13
◆ [募集] 第22回大会自由研究(口頭発表・ポスター発表)	14
◆ [募集] 年報第21号投稿への投稿のご案内	15
◆ [募集] シリーズ本第10巻「帝國的社会と高等教育」原稿再募集	15
◆ [ご案内] シリーズ本第9巻『学生と考えたい「青年の発達保障」と大学評価』 が刊行されました	15
◆ [報告] 教育関連学会連絡協議会第12回総会について	15
◆ [報告] 第66回研究会	16
◆ [お願い] 学会年会費の請求について	18
◆ 学会日誌	18

[報告]

大学評価学会第21回全国大会の報告

大学評価学会第21回全国大会は、2024年3月2日(土)と3日(日)の二日間にわたり早稲田大学の会場とオンラインのハイブリッド形式で開催されました。1日目には午前にはオンラインで5件の自由研究発表、午後には会員総会とシンポジウムがありました。2日目には午前には会場で5件の自由研究、午後には2つの課題研究(「教職協働:大学職員の内発性に基づく役割モデルの再構築に向けた国際比較研究」と、「青年期の発達保障:学生の学びと発達を支える『大学と社会の接続』—青年の学ぶ権利の実質を保障しうる大学評価のあり方を探る(4)」)の発表が行われました。

「高等教育無償化の未来、日仏比較の視点から」と題したシンポジウムでは、まず岡山茂(早稲田大学)が基調報告「マラルメの文学基金とアシッドの提言の連続性について」をおこない、それに細川孝氏(龍谷大学)が経営学の視点から、そして石井拓児氏(名古屋大学)が教育行政学の視点から応答しました。その後の議論には会場やオンラインの聴衆も参加しました。

高等教育の無償化は日本でも政治のプログラムにのぼりつつありますが、地域ごとの取りくみや一部の学生を対象とするものにとどまっています。戦後にすべてのレベルの教育の無償化が国家の義務となった

フランスでは、逆にいま、政治によってそれが切り崩されようとしています。EU 圏外からの留学生（博士課程は除く）の学費は有償化され、「専門学校」（いくつかのグランドゼコールも含む）でも有償化は進みつつあります。コレクティブ・アシッドという教員のグループは、すべての学生に生活費と住居費をくばり、高止まりしている学生の中退率をさげるために、大学の教育環境をグランドゼコールなみに改善することを提案しました（2015 年）。日本でもフランスでも、無償化の本来の理想の実現のために、政治を動かすことが問われる時代となっています。大学評価学会はどう動けばよいのか。それが今後に引き継がれる課題であることは確認できたと思います。

2020 年の桜美林大会は、コロナのために直前になって中止になりました。今回の早稲田大会はハイブリッド形式で行いましたが、大学には授業をオンラインでやるためのマニュアルはあっても、学会をハイブリッドで開催するためのマニュアルはありませんでした。大学のスタッフは手伝ってくれましたが、土日は休みのため手さぐりの開催となりました。しかしその試行錯誤のなかにすべてがあったと思います。というのも、理想の大学無償化が実現しても、なんらかの偶然か、だれかがだれかを誘うというアナログな仕掛けがないかぎり、「キャンパス」で人と人が出会うことはないからです。オンラインも仮想のキャンパスですが、学会員は年に一度くらいはどこかに集い、議論し、酒も酌みかわしたりしながら、手探りで自らの「土地」を確認するべきではないでしょうか。

ジョルジョ・アガンベンが 2020 年 3 月にルモンドに書いた言葉を引用しておきたいと思います。「心配なのは現在のことばかりでなく、このあとに何が起こるかです。戦争が一連のいまわしいテクノロジーを平和への遺産として残したのと同じく、新型コロナウイルスとの戦いが済んだあとでも、諸国の政府はいまだ実現できていない経験が続けようとするでしょう。つまり大学を閉鎖すること、講義をオンラインでやらせること、政治や文化の問題について語るための集まりを禁止すること、デジタルのメッセージしか交換させないようにすること、人間のあいだのすべての接触やすべての感染を、マシーンが肩代わりできるようにすること…。」

(大会実行委員長、岡山茂)

【報告】 大学評価学会第21回年次総会の報告

第 21 回大学評価学会年次総会は、2024 年 3 月 2 日（土）13:30 より早稲田大学（+Zoom によるオンライン）にて開催しました。主な議事内容（報告事項扱いを含む）は以下のとおりです。

1. 議長の選出（理事：松下、会員：横山）
⇒すべて承認
2. 第 9 期理事の選出 理事選出管理委員会（日永・上中） 【別紙 1】
⇒すべて承認
3. 第 9 期会計監査の承認 【別紙 1】
⇒すべて承認
4. 第 9 期顧問の了解 【別紙 1】
⇒すべて承認
5. 2023 会計年度活動総括（案）について
⇒すべて承認
＜学会年報＞
第 19 号の発刊（2023 年 8 月）並びに第 20 号の編集
＜シリーズ本＞
シリーズ本の第 9 巻は作成中（今夏までの発行見込み）。第 10 巻は執筆者を募集中。

<研究会活動>

第64回研究会 2023年9月2日（キャンパスプラザ京都+Zoomによるハイブリッド開催）

報告1：学生支援制度の行方－日本学生支援機構発足20年を目前に（西川治会員）

報告2：国民が求める「地域の大学」の課題―北海道私立大学を対象に―（市川治会員）

第65回研究会 2023年12月10日（キャンパスプラザ京都+Zoomによるハイブリッド開催）

午前の部

講演：「楽力で育つ青年・大学・地域社会―大阪観光大学の挑戦」(山田良治大阪観光大学学長)

午後の部 教職協働部会による研究報告

1. 韓国（釜山）大学訪問調査報告（深野政之会員）

2. 韓国大学職員の人事評価制度の現状と課題（宮澤文玄会員）

<課題研究・委員会等の活動>

「教職協働」部会の活動実績を基盤とした科研費（C）（代表：深野／2018-20, 2021-23）により、韓国（釜山）大学訪問調査（8月）、研究会報告（12月）。この他、MLを通じた情報交換、独自WEBサイトによる情報発信。

「青年の発達保障」委員会（2016.5.発足／世話人：西垣・川口）は、シリーズ本第9巻を作成中。

<学会通信>

年2回発行：第56号（2023年7月）、第57号（2024年1月）

<理事会>

第8期第2回通信理事会（7/20、メール審議）、第8回理事会（9/2、キャンパスプラザ京都+Zoomハイブリッド開催）、第9回理事会（12/10、キャンパスプラザ+Zoomによるハイブリッド開催）、第10回理事会（2/29、Zoomオンライン開催）

<会員現況>

会員数： 145 [内訳 会員： 138 協力会員： 7 (団体会員 1 を含む)]

<日本学術会議／教育関連学会連絡協議会への参加>

教育関連学会連絡協議会第11回総会に参加（日永共同副代表）

6. 2023会計年度決算（案）および監査報告 【別紙2】

⇒すべて承認

7. 2024会計年度活動方針（案）について 【別紙3】

⇒すべて承認

8. 2024会計年度予算（案）について 【別紙4】

⇒すべて承認

9. 第22回全国大会について 西南学院大学 2025年3月1～2日（土・日）

10. 田中昌人記念学会賞の発表

以上

[年次総会 別紙 1] 第9期体制について

顧問	理事	会計監査	幹事
池内 了	光本 滋	中道 眞	金丸 彰寿
井上 千一	西垣 順子	塩見 歩	小山 由美
植田 健夫	藤原 隆信		重本 直利
碓井 敏正	石井 拓児		水谷 勇
岡山 茂	川口 洋誉		
蔵原 清人	小池 由美子		
広渡 清吾	細川 孝		
細井 克彦	安東 正玄		
朴木 佳緒留	米津 直希		
三輪 定宣	伊藤 彰浩		
山本 健慈	菊池 芳明		
渡部 昭男	國本 真吾		
	瀧本 知加		
	中井 睦美		
	中田 晃		
	中山 弘之		
	深野 政之		
	松下 尚史		
	村上 孝弘		
	望月 太郎		

[年次総会 別紙 2] 2023 年度決算案(2023 年 2 月 16 日－2024 年 2 月 20 日¹⁾)

【一般会計】

	2023 年度予算	2023 年度決算	内容
前期繰越金	1, 357, 408	1, 357, 408	
会 費	600, 000	730, 000	
2023 年度会費	510, 000	730, 000	過年度会費を含む
過年度会費	90, 000	0	
年報販売売上 ²⁾	100, 000	78, 000	
雑収入	1, 000	0	
＜収入合計＞	2, 058, 408	2, 165, 408	
全国大会 (第 20 回)	120, 000	110, 008	
開催補助 (特別会計へ)	70, 000	70, 000	
予稿集印刷	0	0	
大会案内印刷・送付費	50, 000	40, 008	予稿集送付料含む
年 報 (第 19 号)	425, 000	395, 862	
編集・印刷費	400, 000	378, 720	印刷費 33 万円他
送付費 (封筒等含む)	25, 000	17, 142	
学会通信 (年 2 回)	100, 000	90, 535	
印刷費	60, 000	45, 815	
送付費 (封筒等含む)	40, 000	44, 720	
研究例会 (年 2 回)	41, 000	20, 000	
会場費他	40, 000	20, 000	講師謝礼、2 人
湯茶等	1, 000	0	
理事会会議費	50, 000	0	
事務費・事務用品費 ³⁾	30, 000	14, 860	
支払手数料	20, 000	14, 375	郵便振替手数料
委託費	10, 000	3, 000	学会賞、賞状作成
会費	10, 000	10, 000	教育関連学会連協
予備費 ⁴⁾	120, 000	95, 370	21 回大会予稿集
＜支出合計＞	926, 000	754, 010	
＜次期繰越金＞	1, 132, 408	1, 411, 398	

注 1) 理事会の承認を得て 2024 年 2 月 20 日付で決算を行っている。

2) 全額が晃洋書房への販売委託に関する収入である。

3) 事務費・事務用品費には、通信費 (1, 660 円) を含んでいる。

4) 第 21 回大会の予稿集を事前に全会員に送付するため、予備費から支出した。

【全国大会 特別会計】

	2023 年度予算	2023 年度決算
前期大会繰越金	282, 597	282, 597
全国大会（第 20 回大会）	70, 000	70, 000
開催補助（一般会計から）	70, 000	70, 000
参 加 費	0	0
雑 収 入	0	0
＜収入合計＞	352, 597	352, 597
会 場 費	0	0
講師等 謝金・旅費	65, 000	65, 000
アルバイト代	0	0
諸 雑 費	10, 000	2, 350
予 備 費	20, 000	0
＜支出合計＞	95, 000	67, 350
＜次期大会・繰越金＞	257, 597	285, 247

【シリーズ本 特別会計】

	2023 年度予算	2023 年度決算
前期繰越金	163, 449	163, 449
シリーズ本売り上げ	48, 000	0
第 8 号：学会売上	3, 000	0
同：晃洋書房還元	0	0
第 9 号：学会売上	45, 000	0
同：晃洋書房還元	0	0
雑 収 入	10, 000	0
＜収入合計＞	221, 449	163, 449
シリーズ本・継続企画	310, 000	0
編集・印刷費	300, 000	0
送 料	10, 000	0
予 備 費	10, 000	0
＜支出合計＞	320, 000	0
＜次期繰越金＞	△ 98, 551	163, 449

【貸借対照表（2024 年 2 月 20 日現在）】

資産		負債	
現金	29, 796	次期繰越金	1, 860, 094
郵便振替口座	1, 830, 298		
合計	1, 860, 094	合計	1, 860, 094

2024 年 2 月 26 日

監査報告書

大学評価学会 御中

大学評価学会の 2023 年度（2023 年 2 月 16 日～2024 年 2 月 20 日）決算について本日、監査いたしました。帳簿、証憑はすべて正確に処理されていることを認めます。
なお、引き続き、学会費の徴収に格段の努力をいただきますよう要望いたします。

以上

会計監査人 垂坂 あかり (印)

会計監査人 小野 哲 (印)

[年次総会 別紙 3] 2024 会計年度(2024 年 3 月～2025 年 2 月)活動方針(案)

1. 活動内容の概要

- ・ 第 21 回全国大会・会員総会
- ・ 理事会：3 回（通信による理事会を緊急検討案件等があった場合に開催）
- ・ 研究会：2 回程度（理事会開催時等に実施、研究集会とする場合もあり）
- ・ 学会通信：2 回発行
- ・ 学会年報：第 20 号発行、第 21 号発行準備
- ・ シリーズ本第 9 巻刊行（夏までに）
- ・ シリーズ本第 10 巻の刊行に向けた準備
- ・ 日本学術会議／教育関連学会連絡協議会関連情報の配信（随時）
- ・ 教育関連学会協議会第 12 回総会への参加（2024 年 3 月 9 日 開催予定）

（次年度）第 22 回全国大会・会員総会（日時：2025 年 3 月 場所：西南学院大学）

2. 実施計画

2024 年 03 月（2 月の前倒し実施を含む）

第 8 期第 10 回理事会（Zoom によるオンライン開催）

- ・ 第 21 回会員総会の議案および運営等について
- ・ 第 22 回大会実行委員会発足準備等について

第 21 回会員総会（早稲田大学+Zoom ハイブリッド開催）

- 第9期第1回理事会・第8期第11回理事会合同開催
- 2024年6月 学会通信(58号 2024-1)発行 <内容詳細は次項参照>
- ・ 第21回大会報告
 - ・ 第22回大会第1次案内、自由研究・ポスター発表募集予告
 - ・ 田中昌人記念学会賞受賞者紹介
 - ・ 第10期体制(理事・幹事・顧問等)
 - ・ その他
- 2024年8-9月 第9期第2回理事会(研究会を同日開催する場合あり)
- ・ 第22回大会準備状況報告、自由研究・ポスター発表募集開始
 - ・ シリーズ本の刊行・作成状況
- 2024年11-12月 第9期第3回理事会(研究会を同時開催する場合あり)
- ・ 第22回大会プログラム確定
 - ・ 学会年報第20号の編集状況
- 2025年1月 学会通信(59号 2024-2) <内容詳細は次項参照>
- ・ 第22回大会案内(大会プログラム)
 - ・ その他
- 2025年2月 学会年報20号刊行

3. 2024 会計年度学会通信発行予定案

(1) 58 (2024-1) 号 (2024 年 5~6 月発行予定)

1. 第21回全国大会報告(概要報告を含む、大会実行委員会)
 - ① 大会について
 - ② 全国大会特別会計収支の報告
2. 第21回会員総会報告
 - ① 総会議事概要
 - ② 総会参考資料(一般会計・特別会計収支予算・決算・監査報告)
3. 第9期体制(理事・幹事・顧問・監査・年報編集委員会)
4. 共同代表あいさつ
5. 理事会報告
6. 田中昌人記念学会賞受賞者のことば
7. 第22回大会自由研究(口頭発表・ポスター発表)募集
8. 学会年報への投稿募集
9. 学会年会費の請求について
10. 大学評価学会の日誌
11. 教育関連学会連絡協議会第12回総会について
12. その他(研究会の案内など)

(2) 59 (2024-2) 号 (2025 年 1 月発行予定)

1. 第22回全国大会について
 - ① 大会実行委員長からの参加呼びかけ(あるいは趣旨説明)
 - ② 大会プログラム・インフォメーション等
2. 理事会報告
3. 研究会等の報告
4. 学会年報編集委員会からのお知らせ

5. シリーズ本第9巻発行のお知らせ
6. 会費納入のお願い
7. 大学評価学会の日誌
8. その他

[年次総会 別紙 4] 2024 年度予算案(2024 年 2 月 21 日－2025 年 2 月 28 日)

【一般会計】

	2024 年度予算	2023 年度決算	2023 年度予算
前期繰越金	1,411,398	1,357,408	1,357,408
会 費 ¹⁾	660,000	730,000	600,000
2024 年度会費	570,000	730,000	510,000
過年度会費	90,000	0	90,000
年報販売上	100,000	78,000	100,000
雑収入	1,000	0	1,000
<収入合計>	2,172,398	2,165,408	2,058,408
全国大会 (第 21 回大会)	80,000	110,008	120,000
開催補助 (特別会計へ)	20,000	70,000	70,000
予稿集印刷 ²⁾	0	0	0
大会案内印刷・送付費(22 大会)	60,000	40,008	50,000
年 報 (第 20 号)	430,000	395,862	425,000
編集・印刷費	400,000	378,720	400,000
送付費 (封筒等含む)	30,000	17,142	25,000
学会通信 (年 2 回)	120,000	90,535	100,000
印刷費	60,000	45,815	60,000
送付費 (封筒等含む)	60,000	44,720	40,000
研究例会 (年 2 回)	41,000	20,000	41,000
謝礼・会場費	40,000	20,000	40,000
湯茶等	1,000	0	1,000
理事会会議費	30,000	0	50,000
事務費・事務用品費 ³⁾	50,000	14,860	30,000
支払手数料	20,000	14,375	20,000
委託費	10,000	3,000	10,000
会費 (教育関連学会連絡協議会)	10,000	10,000	10,000
予備費 ⁴⁾	120,000	95,370	120,000
<支出合計>	911,000	754,010	926,000
<次期繰越金>	1,261,398	1,411,398	1,132,408

- 注 1) 2024 年度会費は、@6,000×75 人、@3,000×40 人で算出した。過年度会費は、@6,000×10 人、@3,000×10 人で算出した。2024 年 3 月現在の会員数は 145 人 (うち協力会員は 7 人) である。
- 2) 第 21 回大会の予稿集に係る費用は、2023 年度に支出済みである。
- 3) 事務費・事務用品費には、通信費、学会ホームページのサーバー契約などを含む。
- 4) 予備費は、第 22 回大会の予稿集に係る費用を含んで計上している。

【全国大会 特別会計】

	2024 年度予算	2023 年度決算	2023 年度予算
前期大会繰越金	285,247	282,597	282,597
全国大会（第21回大会）	20,000	70,000	70,000
開催補助（一般会計から）	20,000	70,000	70,000
参加費	0	0	0
雑収入	0	0	0
＜収入合計＞	305,247	352,597	352,597
会場費	0	0	0
講師等謝金・旅費	0	65,000	65,000
アルバイト代	0	0	0
諸雑費	10,000	2,350	10,000
予備費	10,000	0	20,000
＜支出合計＞	20,000	67,350	95,000
＜次期大会・繰越金＞	285,247	285,247	257,597

【シリーズ本 特別会計】

	2024 年度予算	2023 年度決算	2023 年度予算
前期繰越金	163,449	163,449	163,449
シリーズ本売上	48,000	0	48,000
第8号：学会売上 ¹⁾	3,000	0	3,000
同：晃洋書房還元	0	0	0
第9号：学会売上 ²⁾	45,000	0	45,000
同：晃洋書房還元	0	0	0
雑収入 ³⁾	10,000	0	10,000
＜収入合計＞	221,449	163,449	221,449
シリーズ本・継続企画	360,000	0	310,000
編集・印刷費	350,000	0	300,000
送料	10,000	0	10,000
予備費	10,000	0	10,000
＜支出合計＞	370,000	0	320,000
＜次期繰越金＞	△ 148,551	163,449	△ 98,551

注 1) 第8号の学会売上は、2部（頒価@1,500）を見込んだ。

2) 第9号（新企画）の学会売上は、30部（頒価@1,500）を見込んだ。

3) 雑収入は、第7号までの販売を見込んだ。

第IX期共同代表理事あいさつ

共同代表理事 西垣 順子

大学評価学会には10年ほど前からお世話になっています。学会内では、青年期の発達保障に関する課題研究セッションの企画やシリーズ本の作成などを担当させていただくことが多いです。他方で勤務している大学では、教育面を中心に大学評価に関する仕事を担当しています。大学・大学評価に関する諸政策に対して言いたいことも少なからずありますが、それ以上に気になるのは各大学の中にある「過剰適応の動き」だと昨今は特に思います。さらにその過剰適応にはある程度の方向性もあるようで、おそらくその背景にはジェンダーバランスも含めた意思決定のあり方の偏りもあるのだろうと思います。とはいえ、「はて？」と思っている教職員の方々や学生さんも少なからずおられるはずで、そういう方々の疑問にこたえていけるような研究発信を、大学評価学会としてできればと思っています。大学自治の深刻な危機、18歳人口の更なる減少、社会における少子高齢化の進行、学生納付金に係る問題の複雑な新展開など、すべての人の生涯発達の権利と学ぶ権利の保障に係る研究運動の課題は山積していると思います。そのような中で始まった第9期、本学会に対する会員の皆様からの積極的なご意見および研究発表をお待ちしております。

共同代表理事 光本 滋

「現実」を「理想」、すなわち「あるべき姿」に近づけていく努力は社会のさまざまな領域でおこなわれてきました。「現実」を「あるべき姿」に近づけていく営みは一般に、「改良」、「改善」、あるいは「改革」と呼ばれます。大学も例外ではありません。大学に関しては、1960年代末以降、「大学改革」という言葉が用いられてきました。

1980年代に編纂された「大学改革」に関する叢書（『講座 日本の大学改革』1982年）は、巻頭言で二つの「大学改革」があたかも別の系であるかのように相互に関連を持たずにおこなわれていると指摘しています。すなわち、各大学が自主的におこなっている研究・教育、管理・運営、経営等の改革と、政府がすすめる教育制度や学術体制などの改革が分離し、ときに矛盾しながら進行しているというのです。そして、「この不幸な二元性はぜひとも克服されなければならない」と述べました。

それからおよそ20年後、大学評価制度が生まれました。それは大学内部の改革を利用して大学全体の改革をすすめていこうとするものであり、同時に大学内部の改革を大学全体の改革により枠づける役割をはたしています。このような制度の下で、現在では「大学改革」の「二つの系」は見かけ上一致しつつあります。しかし、残念ながら「不幸」はなくなっていないようです。

本学会は、二つの「大学改革」をむすびつける大学評価の目的を問い直すことを課題として発足しました。第IX期の研究と実践を通して、少しでも大学の「現実」を「あるべき姿」に近づけられるよう、皆さまで力を合わせていきたいと思っています。

[報告]

理事会報告

大学評価学会第Ⅷ期第10回理事会は、2024年2月29日（木）19時からZoomによりオンラインにて開催しました。報告と議題は以下の通りです。

報 告：

1. 学会広報のあり方に関する委員会からの報告
2. 学会年報編集委員会からの報告
3. シリーズ本第9巻の作成状況についての報告
4. シリーズ本第10巻の作成状況についての報告
5. その他 第21回大会の準備状況について

議 題：

1. 会員の異動について
2. 第21回全国大会の記録について
＜学会通信掲載分＞
 - ①第21回全国大会について
 - ②総会議事要旨
 - ③理事会議事要旨
＜年報掲載分＞
 - ① 大会日程
 - ② 課題研究Ⅰ 教職協働
 - ③ 課題研究Ⅱ 青年期の発達保障
＜教育学関連学会等連絡協議会への報告＞
3. 2023年度決算および2024年度予算について
4. 2024年度活動方針案について
5. 第9期理事の推薦について
6. 第9期監査の推薦について
7. 第9期幹事・顧問について
8. 第8回田中昌人記念学会賞について
9. 第21回会員総会の議案および運営について
10. 第22回全国大会について

大学評価学会第Ⅸ期第1回理事会は、第Ⅷ期第11回理事会との合同理事会として開催しました。2024年3月3日（日）12時より早稲田大学306教室にて開催しました。報告と議題は以下の通りです。

報 告：

第21回総会報告

議 題：

1. 理事・幹事等の役割分担について
代表・副代表・事務局長
教育学関連学会等連絡協議会への代表
田中昌人記念学会賞選考委員会担当
学会広報に係る委員会
学会年報編集委員会
学会通信作成（編集・版組）担当
事務局の体制（業務の引継ぎ希望を含む）

- ・ウェブサイトの更新作業、
- ・メーリングリスト管理、
- ・年報編集委員会幹事（年報の電子化・EBSCO とのやりとり）
- ・大会実行委員会の補助作業（発表申し込みフォームの作成と受付、大会プログラム原案作成、予稿集作成依頼・原稿作成・編集）

シリーズ本第9巻編集委員会

シリーズ本第10巻の編集体制

2. 第22回大会実行委員会について（次回理事会で決定）
3. 2024年度の研究会および理事会の日程・場所について（MLを通じて日程調整を行う）
4. 第23回大会と第24回大会の開催地および実行委員会の組成について（第23回は関西を軸に検討する、第24回は継続審議）

大学評価学会第IX期第2回の理事会は、2024年9月16日（月）19時から龍谷大学・梅田キャンパスにて開催しました（Zoom 併用）。報告と議題は以下の通りです。

報 告：

1. 会員の異動について
2. 財政について
3. 年報の編集について
4. 「学会通信」について
5. シリーズ本について
6. 学会ウェブサイトについて

議 題：

1. 議事録承認
2. 幹事の委嘱について
3. 第22回全国大会について
4. 第23回大会の開催校について
5. 会員管理・会計業務の外部委託について
6. シリーズ本の取り扱い価格について
7. 第IX期第3回理事会について（11月～12月に開催）

【受賞・表彰】

田中昌人記念学会賞受賞者のことば

田中昌人記念学会賞を受賞して

このたびは、第8回田中昌人記念学会賞をいただき、誠にありがとうございます。推薦していただいた会員の先生方、選考委員の皆さま、そして第8期の理事の皆様、改めて御礼申し上げます。受賞の対象となった、拙著『ライフワイドの視点で築く学びと育ち—障害のある子ども・青年の自分づくりと自分みがき』（日本標準ブックレットNo. 26、2023年）は、自身にとって初の単著になります。出版してからちょうど1年という時期に学会賞をいただいたわけですが、今後の学会の発展に尽力するようというメッセージだと重く受けとめ、できる限りのことでお返しできるよう、さらに努めてまいりたいと思う次第であります。

田中昌人先生に直接触れることができたのは、わずかに二度ほどしかありません。学生時代から教をい

ただいてきた障害児教育の世界の先生方には、京大時代の田中先生のもとで学ばれた方が多く、勝手ながら孫弟子と思ってきました。また、田中先生が勤められた知的障害児施設・滋賀県立近江学園の初代園長である糸賀一雄先生は、私の高校（旧制中学時代）の先輩でもあり、不思議な縁を感じざるを得ません。

拙著は、障害のある若者、特に18歳以降の人の教育の機会保障を扱った内容です。わが国において、高等教育の機会から遠ざけられている彼らにとって、学び続けることの意義は何かを「専攻科」や生涯学習の視点から論じた形になります。タイトルにも掲げた「ライフワイド」は、教育年限や階梯を延伸させていく縦軸に対して、各ライフステージにおけるその選択肢を拡張させていく横軸の意味から用いました。高等教育の漸進的無償化以前に、障害のある人にとっての高等教育には門戸を広げるという点でまだまだ課題が残されています。また、障害のある若者たちに関わっていると、日頃接している学生の育ちや発達を保障する高等教育の在り方を考えることへと自然に頭と心が向かいます。地方私立短大に身を置く立場ですが、一隅を照らす形で、これを励みに研究や実践に引き続き邁進していく所存です。

第8回 田中昌人記念学会賞受賞者
國本 真吾（鳥取短期大学）

[募集]

第22回大会自由研究(口頭発表・ポスター発表)

大学評価学会第22回大会について（第1次案内）

日程：2025年3月1日（土）～2日（日）

場所：西南学院大学（福岡市）西南コミュニティーセンター

概要：自由研究発表、ポスター発表、総会、シンポジウム、課題研究（予定）

※ 開催形式は「対面のみ」とします。

大会テーマ：現に行われている大学評価の現状と課題に関するもので具体化します。

<自由研究発表（口頭発表）およびポスター発表の申し込みについて>

大会期間中、会員の「自由研究発表」・「ポスターセッション」を開催します。

会員の皆様にはふるってお申し込みください。申し込み方法の詳細は、大学評価学会年報の発送時に同封の案内もしくは学会ウェブサイトでご確認ください。第22回大会情報を随時更新してまいります。なお、入会手続きをすれば発表が可能です。非会員の方で発表希望の方は、学会事務局（hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp）までご連絡ください。

【申し込み受付期間】2024年10月1日（火）～11月30日（土）

【想定されるテーマ】大学・学術の果たすべき役割、大学評価や法人経営のあり方、評価書の読み方・読み解き、大学評価・大学教育政策、公立大学問題、センター・附属施設の機能、教職協働の取り組み、FDや学生参画、授業づくりの実践、アクティブ・ラーニング、高大連携・高大接続の現状と課題、学生・青年の発達保障・移行支援、就活・キャリア教育、無償教育の漸進的導入、ジェンダー問題・男女共同参画、多様性と包摂など

【報告要旨集の原稿締め切り】2025年1月20日（月）

【申込先】第22回大会実行委員会事務局 info@aue-web.jp

参加予定の方は、早めに宿泊予約をしてくださいますようお願いいたします。

[募集]

年報第 21 号への投稿のご案内

学会年報については第 21 号から発行時期を変更します。原稿募集については次号学会通信（第 59 号）にて案内させていただきます。

[募集] シリーズ本第 10 巻「帝國的社会の戦前と戦後 大学の自治をめぐる」(仮)原稿再募集

前回の学会通信第 57 号でご案内したシリーズ本第 10 巻はエントリーがいまのところ 4 件にとどまっています。原稿提出の締め切りを来年（2025 年）12 月末日まで延長して募集をつづけますのでご寄稿をお考え下さい。タイトルを「帝國的社会と高等教育」から「帝國的社会的戦前と戦後 大学の自治をめぐる」(仮)に変えました。大学の自治に関わることであれば戦前と戦後、国内と国外にかかわらず自由に書いていただいても結構です。字数は 36000 字を上限にします。またこの企画のきっかけとなった細井克彦先生の論文「戦後における大学像の変容と高等教育費問題—権利保障の観点から」をお読みにになりたい方はご連絡ください。書評も受けつけます。問い合わせ先：岡山茂（編集担当）shigeru@waseda.jp

[ご案内] シリーズ本第9巻『学生と考えたい「青年の発達保障」と大学評価』が刊行されました

シリーズ本『学生と考えたい「青年の発達保障」と大学評価』（晃洋書房、2024 年 9 月。本体価格 1,500 円）が刊行されました。会員の皆さんには本体価格の 8 割で取り扱いさせていただきます（郵送の場合には、送料をご負担ください）。なお、執筆者価格は、本体価格の 6 割です。

[報告]

教育関連学会連絡協議会第 12 回総会について

(1) 第 12 回教育関連学会連絡協議会総会

2024 年 3 月 9 日（土）13:00～14:00（オンライン）

審議事項 (1. 活動報告／2. 会計・監査報告／3. 次期運営委員会選挙／4. 本日のシンポジウムについて／5. その他)

(2) 公開シンポジウム

「大学における教員養成の未来—『グランドデザイン』をめぐる」

日時：2024 年 3 月 9 日（土）、14 時 30 分～17 時 00 分

(3) 科研費増額要請について

2024 年 4 月 1 日に生物科学学会連合から科研費増額要望・署名の賛同人となってほしいとの依頼が教育関連学会連絡協議会に打診があった。理事会でメールを回覧し、意見交換を行った。意見交換では、科研費増額は真つ当な要求ではあるものの、運営費交付金ならびに私学助成金といった基

盤的経費の増額を同時に要請する必要があるのではないかと意見が出されたため、教育関連学会連絡協議会にその旨、意見を提出した。

その後、2024 年 5 月 10 日には、生物科学学会連合事務局から意見交換会開催の案内があり（6 月 10 日開催）、理事会にメール案内を送付した。

2024 年 6 月 14 日には、科研費増額要望への学協会としての賛同の要請があり、この件についても理事会でメール審議を行った。この間、競争的資金の拡充が基盤的経費の削減によってすめられてきたことから、科研費増額要請が基盤的経費の削減につながりかねないことや、そもそも基盤的経費の増額こそが重要ではないかと意見が出され、大学評価学会（学協会）として賛同人になることは保留している。2024 年 7 月 1 日より、生物化学連合から賛同署名の呼びかけが開始されている。

（文責：石井拓児）

[報告] 第 66 回研究会

第 66 回研究会は、龍谷大学・大阪梅田キャンパスにて 9 月 16 日（月）13 時 30 分よりハイブリッドにて開催しました。以下は、ご報告いただいたお二人の会員にまとめていただいた報告の要旨です。

報告 1 堀雅晴 氏（立命館大学）

2023 年改正私学法の単体分析は普通にやられているし、これからもそうした研究は続いていくであろう。そこで本稿では 1949 年私学法制定から 75 年間にわたる改正議論を、法人管理を担う理事会と評議員会を軸にして時系列でみることにした。そうすると今回の単体分析だけでは見えなかった改正ドラマが、そこにみることができる。

もともと文科省と私学経営者の主導で私学の振興策をはじめ私学法の改正議論が進められてきており、2019 年改正私学法（5 月 24 日）に結実していたわけである。しかしながら成立から 1 カ月も経たない 6 月 21 日に閣議決定「経済財政運営と改革の基本方針 2019」がなされ、「公益法人としての学校法人制度についても、社会福祉法人制度改革や公益社団・財団法人制度の改革を十分踏まえ、同等のガバナンス機能が発揮できる制度改革のため、速やかに検討を行う」との基本方針が示されることとなった。それを後押しする形で 6 月 28 日には自由民主党行政改革推進本部公益法人等のガバナンス改革検討チームからの「提言」があり、それに沿った「法律の一次案」を文科省がまとめないかぎり、与党の法案審査をパスする見込みがないことがあきらかとなった。

しかしこうした事態になったなかでも、文科省は私学経営者の意向を熟知している関係から足をなかなか踏み出せなかった。そこで改めて閣議決定「経済財政運営と改革の基本方針 2021」（6 月 18 日）が出され、内閣府の主導で文科大臣の下に学校法人ガバナンス改革会議を設置（7 月 19 日）させ、「年内に結論を得、法制化を行う」ように迫った。

学校法人ガバナンス改革会議での議論の特徴は公益法人改革の雛型に沿った評議員会型コーポレート・ガバナンスを目指すものであり、理事長代表型ガバメントのもとで権力集権構造を保ってきた私学経営者にとって、到底受け入れられるものではなかった。振り返れば 2004 年改正私学法の議論の際には、私学経営者の一部からコーポレート・ガバナンスへの私学法の改正を期待する発言（清成忠男氏や黒田壽二氏など）が大きかったことをよくおぼえている。今回の場合、学校法人ガバナンス改革会議のミッションを支持する私学経営者の発言は実際にはあったのかもしれないけれども、外部に聞こえるほどの大きいものではなかったのではないかと。なぜ本格的な評議員会型コーポレート・ガバナンスが提起されたのにもかかわらず、田中愛治氏を代表とする私学経営者らは「建設的な協働と相互牽制」論を大義名分にして、改めて「コーポレート・ガバナンス擬き」でまとめたのではないかとと思われる。

いずれにしろ、改正私学法のもとでの私学経営者はまさに自らの権力維持を保身する姿勢に終始しており、大学コミュニティの全構成員を代表する者としての正統性を欠如していることを意味しているといえる。そうであれば全構成員自治に基づく私学法に再改正しない限り、“私学の特性”を全面的に体現する私学法にはなりえないと結論する。

報告2 米津直希氏（南山大学）

本報告では、シリーズ本第9巻『学生と考えたい「青年の発達保障」と大学評価』（9月刊行）に触れながら、大学評価における学生参加の意義や課題について整理した。学生の大学評価への参加は世界的には当然視されているが、日本では遅れが見られる。学生が大学を適切に評価する力を身につけることは、大学の本質や学ぶ権利についての理解を深めることにつながる。一方で、今日の政策の流れにおいては、形式的な学生参加や大学側のアリバイ作りに終わる恐れも考えられる。

また近年は学修者本位の大学教育を重視する文脈の中で学修成果の可視化システムの導入が進められているが、これは学びの実感を得られる利点がある反面、大学における学びの矮小化や数値評価による競争激化のリスクも存在する。また、スキル最優先の教育がかえって批判的思考力の低下につながる可能性も指摘される。これらの課題に対し、大学と学生が互いの声に真摯に向き合うことで、双方が成長する機会となりうることを主張した。

個人の「学修成果」に拘泥しすぎず、これまで経験的に積み上げられてきた学生の自主的な学びや集団的な活動の意義を再認識し、大学における包括的な学びと社会状況との関わりから学ぶことが重要だと考える。同時に、評価の形骸化や管理のための評価に陥らないよう、「説明責任」としての評価ではなく、改善を目的とした評価システムの構築が求められる。

堀会員の報告に寄せて

細川孝（龍谷大学）

堀狷晴会員は、一般社団法人高等教育計画経営研究所から刊行された『改正私学法と私立大学経営の自律力』に所収の「改正私学法の制度設計と私立大学の自律・協～理事長・理事会と評議員会をめぐる75年～」のエッセンスを報告された。同書には2024年3月6日に開催された同名のセミナーでの講義録をベースに加筆・改稿された3本の論考が収録されており、その一つが堀会員の論考である。「おわりに」で堀会員は、次のように述べている（同書、191頁。傍点は、引用者）。

……改正私学法のもとでの私学経営者はまさに自らの権力維持を保身する姿勢に終始しており、大学コミュニティの全構成員を代表する者としての正当性を欠如していることを意味しているといえるのではないか。そうなると冒頭で結論を先取りしていた全構成員自治に基づく私学法に再改定しない限り、私学の特性を全面的に体現する私学法となりえないといえよう。

……現行の学校教育法のように初等中等学校から大学を含む高等教育までのあり方を総合的に規定する法律から、大学などの後者（現行の学校教育法第9章大学）を別建てに法制化して、現行では設置者別の各法人法を国公私立大学に共通する全構成員自治論に基づいた大学法の立法化を検討することも考える必要がある。

多くのことを学ばせていただいた。そんな時に、駒込武会員から新著『統治される大学……知の囲い込みと民主主義の解体』地平社をお送りいただいた。紙幅の都合で内容に立ち入ることはできないが、駒込会員が「大学をめぐる危機的状況をいわば『同時代史』として書き残」（まえがき、vi頁）されようとしたものである。

私立大学に勤務する堀会員と、国立大学に勤務する駒込会員との違いはあるが、時代に抗いつつ大学のありようを学問的に、そして実践的に探究されようとするお二人の姿勢は共通している。本学会における大学評価の研究が、大学の再生、大学の創造につながるものであってほしいと切に願っている。また、そのような学会運営に貢献できればと思う。

[お願い]

学会年会費の請求について

学会年会費納入のお願い

8月上旬に、2024年度（2024年3月1日～2025年2月28日）の学会年会費の請求書をお送りさせていただきました。過年度分が未納の方につきましては、2024年度分とあわせてお支払いいただきますようお願いいたします。

ご不明な点は、共同事務局（hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp）までお願いいたします。

学会日誌

2024年

2月下旬

会計監査（持ち回り）

2月29日（木）

第8期第10回理事会（オンライン開催）

3月2日（土）、3日（日）

第21回全国大会（於：早稲田大学）

3月2日（土）

第21回会員総会（ " ）

3月3日（日）

第8期第11回理事会・第9期第1回理事会（合同）（於：早稲田大学）

9月16日（月）

第9期第2回理事会、第66回研究会（於：龍谷大学・大阪梅田キャンパス）

<予定>

2024年

12月15日（日）

第9期第3回理事会、第67回研究会（於：キャンパスプラザ京都）

2025年

2月中旬

会計監査（持ち回り）

2月中旬

第9期第4回理事会（オンライン開催）

3月1日（土）、2日（日）

第22回全国大会（西南学院大学）

 学会通信第58号の編集後記

皆さんこんにちは、ようやく秋の気配を感じられるようになりました。この異常気象で農作物にも影響があると聞いています。自然災害も多発し、戦争や争いも酷くなっているこの世界の中で、自由に生活ができていることをありがたく思うのですが、心のどこかに不安と恐れを感じています。

学会通信のボタンタッチに長い時間をいただき、当初の予定より発行が遅くなってしまい、誠に申し訳ありませんでした。この大学評価学会は誰もが自由に平等に意見を交わせられる学会で、学会通信にもそれが表れていると思います。薬学出身の私には難しく感じる部分が多いので、対面で質問する機会があったら聞いてみたいと思っています。皆さまはどう感じていらっしゃるでしょうか？（小）

編集・発行：大学評価学会事務局（E-mail：info@aue-web.jp）

〈学会事務局〉〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67 龍谷大学経営学部 細川研究室

Tel/Fax：075(645)8634

E-mail：hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp

〈会費納入先〉郵便振替口座番号：00950-4-296005 名称：大学評価学会